

## 古代文字の解読

松浦 純子

暗号の解読とくれば、戦争やスパイ映画を思い浮かべるであろう。これらの場合、暗号を作る人と解読する人は同時代の人であり、両者の間には共通の認識もある。しかし、古代文字の解読の場合はそうではない。文字を刻んだ人と解読する人は、二千年以上も時を隔てているのである。

まず、最古の文字体系と言われているのは、紀元前三千年紀にメソポタミアのシュメール人が考え出した楔形文字である。この文字は元来、粘土板に葦の茎を押し付けて書いていたので、洪水が起きる度に粘土板は流され、消えてなくなることが多かった。しかし、その解読は岩に彫られた文字を書き写すことから始まった。イランのベヒストゥーンで崖の岩に彫られた文字を見つけた三十代のイギリス人青年は命がけて崖をよじ登り、十年以上にわたって碑文を書き写したのだ。

次に、エジプトのヒエログリフは、ナポレオンのエジプト遠征で発見されたロゼッタストーンが解読の大きな手掛かりとなった。幸いこの石にはギリシア文字も書かれていたので、これを手掛かりに解読が進められた。「ヒエログリフにあるカルトーシユはファラオの名前に違いない」と考えた古代の言語に鋭い勘をもつ三十二歳のフランス人青年が解読に成功した。この文字は鳥、羽、波、蛇、図形などからなり、上下左右のどの方向からも書かれた。

これらの文字が使われた地域は、『コーラン』の影響で、現在はアラビア文字が使われている。

ギリシアのミケーネで発見された線文字Bは、三十歳のイギリス人青年が解読したが、ミケーネ文明滅亡後にフェニキア文字が伝わり、そこからギリシア文字が作られて今日に至っている。

最後に、私たちが使っている漢字の原型の甲骨文字だが、これはたまたま薬として買った骨に文字らしきものが書かれているのを発見した学者が、二十世紀初めに解読した。中国では、古くから亀の甲羅や獣の骨は薬として売られており、残念ながら多くの文字が既に粉末の薬となり、人々の胃の中に消えてしまっていた。